

令和 2 年度

教育に関する事務の管理及び執行状況の点検評価

日南町教育委員会（令和 3 年 5 月 1 3 日審議決定）

『教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価』は、平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）」の一部改正により、新たに「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない」ことが法第26条第1項に規定されたことに基づき、令和2年度における日南町教育委員会の事務の管理及び執行状況について、点検・評価し、その結果をとりまとめるものである。

日南町教育委員会は、『令和2年度 日南町教育の目標』を定め、これに基づき、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価することによって、課題や取り組みの方向性を明らかにし、より効果的な教育行政の推進を図るものである。

教育に関する事務の管理及び執行状況の点検評価

評価	点検・評価基準	達成率目安
A	期待以上の成果・効果を得た。	90%以上
B	目標・目的をおおむね達成（計画どおり推進）した。	80%程度
C	取り組みがやや遅れた。（成果・効果が現れにくかった。）	50%程度
D	取り組みの大幅な見直し・廃止が必要である。	30%以下

I 学校教育、幼児教育

1 ふるさとを愛し、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成

(1) ふるさとを生かした体験的な教育の展開				
目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
<p>①日南町の自然・伝統・文化等の地域資源を活用した「ふるさと教育」を推進し、日南町に愛着と誇りを持った人材を育成する。</p> <p>②豊かな自然を活かした体験学習や伝統文化を大切に、継承する教育活動を展開する。</p>	<p>・小1から中3まで全学年で地域人材、地域資源を活用した「ふるさとキャリア教育」の計画的な実施</p>	B	B	<p>・各学年の指導計画の見直しの実施とそれに沿った学習活動の実施が行われている。</p> <p>○キャリアパスポートの作成、小中学校におけるふるさとキャリア教育の年間指導計画の見直しが実施され、特に森林教育（木育）の取り組みが中学校まで拡大され、全学年で実施された。</p> <p>▲地域の自然・伝統・文化等に関する指導計画の見直しを実施し、「日南学」として系統的な指導の充実を図ることが求められる。</p>
<p>③自然体験や文化的な活動など協同的な学習を通して、他者への思いやりや優しさを育み、社会性や規範意識を育てる。</p>	<p>・i-Checkによる社会性（規範意識）に関する肯定的回答（全国平均）</p> <p>・i-Checkによる「親切・思いやり」に関する肯定的回答（全国平均）</p>	C	C	<p>・様々な体験活動や異学年での活動などを行い、社会性の育成に取り組んでいる。</p> <p>・教育委員会事務局として、小学校に対し児童対応や生活時間厳守、授業づくり等に関する指導・支援を行った。</p> <p>・i-Checkによる社会性に関する肯定的回答 社会性（規範意識） 全国平均と同程度以上5学年（小2、小3、小4、中2、中3） 「親切・思いやり」 全国平均と同程度以上4学年（小2、中1、中2、中3）</p> <p>▲特に、小学生は規範意識や思いやりの心の育成に課題があり、小学校では生徒指導体制や人権教育</p>

				・道徳教育の見直しを行う。
④日南町の自然や伝統、文化等に関わる学びの機会を設け、地域の特性や特色を活かした学習教材の開発に努める。	・転入教職員の地域研修（町内巡り等）の実施	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に町内巡り研修を実施し、7名の教職員が参加した。 ・各学年の指導計画の見直しの実施とそれに沿った学習活動の実施が行われている。 ○キャリアパスポートの作成、小中学校におけるふるさとキャリア教育の年間指導計画の見直しが実施され、特に森林教育（木育）の取り組みが中学校まで拡大された。 ▲地域の自然・伝統・文化等に関する指導計画の見直しを実施し、「日南学」として系統的な指導の充実を図ることが求められる。
	・「ふるさと教育」に係る年間指導計画の見直しや計画的な授業の実施	B		
⑤日南町で生活・活動する人たちと関わりながら、学校（園）、家庭、地域が連携した教育活動を展開する。	・地域人材、地域産業等を活かした体験学習の実施	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科、社会科、総合的な学習等で地域の自然や産業等を生かした学習活動が実施された。 ・新型コロナウイルス感染症対策で様々な活動が制限された中、学校支援ボランティアは年間で延べ625名の活用があった。 ○キャリアパスポートの作成、小中学校におけるふるさとキャリア教育の年間指導計画の見直しが実施され、特に森林教育（木育）の取り組みが中学校まで拡大された。 ▲地域の自然・伝統・文化等に関する指導計画の見直しを実施し、「日南学」として系統的な指導の充実を図ることが求められる。
	・学校支援ボランティアを活用した教育活動の実施	B		

(2) 学習の基礎・基本の定着、基本的生活習慣の定着

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①家庭との連携を深め、学習習慣や基本	・i-Checkによる「学習習慣」に関する肯定的回答	C	B	・日々の指導や家庭学習ががんばるウィークの実施に

<p>的生活習慣の定着を図る。</p>	<p>(全国平均)</p>			<p>より、好ましい学習習慣や生活習慣作りを目指している。</p>
<p>②運動や食事、生活リズム等を改善し、基本的な生活習慣に関する実践的な態度を育てる。</p>	<p>・ i-Check による「生活習慣」に関する肯定的回答 (全国平均)</p>	B		<p>・ i-Checkによる生活・学習習慣に関する肯定的回答 学習習慣 全国平均と同程度以上4学年(小1、小2、小4、中2)</p>
<p>③健康や体力に関心を持ち、児童生徒が自らの生活習慣を改善して意欲的に生活・学習をする態度を育てる。</p>	<p>・ i-Check による「授業以外での運動習慣」に関する回答 (週2日以上割合の全国平均)</p>	B		<p>生活習慣 全国平均と同程度以上7学年(小1、小2、小3、小4、中1、中2、中3) 授業以外での運動習慣 全国平均と同程度以上8学年(小2、小3、小4、小5、小6、中1、中2、中3) ▲学習習慣の定着に大きな課題が見られた。保護者への情報提供や啓発によって課題意識や目標を共有し、家庭との協力で改善を図ることが必要である。</p>
<p>④基礎的な学力を保障するための学習の場と時間を工夫し提供する。</p>	<p>・ 授業時間数の確保</p>	A		<p>・ 全学年で標準授業時間数以上の授業時間が確保された。 ・ 中学校においては放課後学習が例年通り実施されたが、小学校においては、学校支援ボランティアを活用したアフタースクールの取り組みは新型コロナウイルスの影響のために実施できず、学校独自での取り組みになった。</p>
	<p>・ 放課後等の時間を活用した学習補充の実施</p>	B	C	<p>○昨年度末および今年度1学期の学校臨時休業のために学習の遅れが生じたが、夏季休業の短縮や行事の見直し等によって授業時間数が確保され、学習の遅れも解消された。 ▲各学校で補充学習の実施等、努力されたが、小学校においては、落ち着いて授業に参加できない児童が複数見られ、十分な成果が表れなかった。学習規律の徹底や授業改善により、まずは授業を充実させる必要がある。</p>

⑤教職員が強い使命感に燃えて、高い教育的識見と確固たる教育観を持ち、意欲的に教育実践するとともに、常に実践に結びついた幅広い研修を奨励して教育力の向上を図る。	・教職員の公開授業（年間2回以上/人）	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・計画訪問や校内授業研究会で全教員（管理職、養護を除く）が2回以上授業を公開した。 ・校内授業研究会は、小学校で8回、中学校で12回実施された。 ○各校で計画的に研究推進が図られた。 ▲研究内容の見直しが必要である。 ▲教師の専門性を高めたり、学校改善につなげたりするため、管理職に対して積極的な研修派遣を指示したが、新型コロナウイルス感染防止による研修の中止や学校の状況もあり、増加は見られなかった。
	・研究テーマに沿った授業研究会（5回以上/年）	B		
	・教職員の研修派遣体制の整備	C		

（3）豊かな人間性と社会性の育成		評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
目 標	成 果 指 標			
①日頃から関わりやルールを重視した保育と学習、生活を展開し、コミュニケーション能力を身につけるとともに、社会性や道徳的な規範意識をもった児童生徒を育成する。	・i-Checkによる社会性（思いを伝える力）に関する肯定的回答（全国平均）	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の学習や日常生活指導等を通して、社会性や道徳性の育成に取り組んでいる。 ・i-Checkによる社会性に関する肯定的回答 社会性（思いを伝える力） 全国平均と同程度以上7学年（小1、小2、小3、小4、中1、中2、中3） 社会性（規範意識） 全国平均と同程度以上5学年（小2、小3、小4、中2、中3） ▲コミュニケーション力や社会性が十分育っていない状況があり、道徳や特別活動を中心に取り組むこととしている。
	・i-Checkによる社会性（規範意識）に関する肯定的回答（全国平均）	C		
②自他の人権・生命・安全・健康を尊重し、人権感覚を磨き、福祉と奉仕の心に満ちた人づくりの実践と充実を図る。	・小中学校における人権教育講演会の実施（1回/年）	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による人権教育講演会（授業）は、小学校で1回、中学校で5回実施された。 ・児童生徒のボランティア活動の実施は、中学校で1回（ふるさとまつり準備への協力）。小学校では実施されなかった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒のボランティア活動への参加（1回以上／年） 	C	<p>○外部人材等を活用した人権学習は、各学校で実施されている。</p> <p>▲小中学生によるボランティア活動は、新型コロナウイルスによる影響があったとはいえ、機会も限られ、積極的に実施されていない。地域貢献等を積極的に推進していく必要がある。</p>
③道徳の教科化に対応し、道徳教育の充実を図り、他者への理解や思いやりの心など豊かな心と道徳的実践力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づいた道徳の授業実践と評価 	B	<p>・道徳の指導は年間指導計画に基づいて実施されている。</p> <p>・i-Checkによる「親切・思いやり」に関する肯定的回答 全国平均と同程度以上4学年（小2、中1、中2、中3）</p> <p>○学校においては、道徳の教科化に伴い、評価等の対応が図られている。</p> <p>▲思いやりの心等、児童生徒の道徳性を高めるため、指導法の工夫改善等の取り組みが必要である。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・i-Checkによる「親切・思いやり」に関する肯定的回答（全国平均） 	C	
④海外派遣事業や国際交流事業、小中学校における外国語活動や英語科等を通して、グローバル社会で生き抜く人材の育成を図り、国際感覚とコミュニケーション能力を培う。	<ul style="list-style-type: none"> ・海外派遣事業の実施 	C	<p>・海外派遣事業は新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止。</p> <p>・国際交流事業は、シアトル中学生の来日の中止、京大留学生の受け入れ中止で、シアトル中学生とのオンラインによる交流のみ実施された。</p> <p>・英検の受検結果 3級合格（6/17） 4級合格（9/12） 5級合格（24/33） 全体合格率 61%</p> <p>○多くの事業が中止となったが、中学校では各学年でWEB会議システムを活用した交流の機会が設けられた。</p> <p>▲英検合格率は75%に到達しなかった。また、中3における3級合格者が6名にとどまり、英語の基礎学力の向上が必要である。次年度もコロナ禍において、オンラインでの交流事業を進め、外国への興味関心を高めるとともに、英語力の向上に努める。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流事業（交流学习）の実施（年1回以上） 	C	
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の英検合格率75%以上 	C	

⑤キャリア教育の充実を図り、自らの進路や職業について展望を持って意欲的に生活する児童生徒を育成する。	・ふるさとキャリア教育の計画的な実施	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の指導計画の見直しの実施とそれに沿った学習活動の実施が行われている。 i-Checkによる「夢や目標を持っている」という項目の肯定的回答 全国平均と同程度以上3学年（小2、小3、中2） ○キャリアパスポートの作成、小中学校におけるふるさとキャリア教育の年間指導計画の見直し等が実施された。 ▲児童生徒が将来の夢や目標をもって意欲的に学習や生活ができるよう、ふるさとキャリア教育の充実を図る必要がある。
	・i-Checkによる「夢や目標を持っている」という項目の肯定的回答（全国平均）	C		

2 保・小・中の連携による教育と学力向上の推進

(1) 保・小・中の連携による教育の推進				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①園児・児童・生徒の学びの意欲と確かな学力をそれぞれの年齢や学年の発達段階に応じて、より高めていくために保、小、中の連携をより強化し、継続性、系統性、一貫性のある保育と教育の実践と充実を図る。	・保小合同研修会、小中合同研修会の実施（年3～5回）	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 保小合同研修会3回開催 小中合同研修会5回開催 保小中合同研修会1回開催（教育委員会主催） 学校評価アンケート（一貫教育についての質問項目）の肯定的回答 小学校32% 中学校33% ○個々の子どもの情報の引き継ぎや教科指導における指導法の共有等、保小、小中連携は進められている。 ▲育てたい資質能力を明確にした取り組みを推進していく必要がある。
	・保護者アンケートによる肯定的回答（80%）	C		
	・継続性、系統性、一貫性のある教育活動の実施	B		

<p>②学年や校種を越えた集团的活動を通して、子どもが自らの成長過程と将来的見通しを実感できる生活や学習活動を展開する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の主体的企画運営による教育活動の実践 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動や学校行事等、主に特別活動において児童生徒の自主的・主体的な活動の実施が図られている。 ・小中合同マラソン大会は、小学生と中学生が合同で運営している。 ○小学校での縦割り班活動等、異学年での活動の機会は昨年度よりも増加している。また、保小の交流の機会も増加した。 ▲児童生徒の主体性を生かした活動にしていくために、さらなる工夫が必要である。
<p>③読み聞かせや読書活動等を継続的に取り入れ、豊かな心や創造力等の育成に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティアによる読み聞かせ等の実施（5回以上／年） ・朝読書の実施（毎日） 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティアによる読み聞かせは、小学校で5回実施された。 ・朝読書は、小中学校ともに毎日実施された。 ○児童生徒が本に触れる機会はある程度確保されている。 ▲読書習慣の定着は不十分であり、読書活動や図書館活用教育のさらなる推進が必要である。
<p>④保・小・中、教育委員会、大学等の各関係機関が互いに連携をする中で効果的な教育を展開し、家庭や地域に情報発信を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各機関の連携を具体化する子ども支援連絡会議の開催 ・大学等外部機関と連携した事例検討や調査分析等の実施 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども支援連絡会議は、概ね月1回（年間8回）開催した。 ・小学校においては、鳥取大学と連携したアンケート調査や研修等が実施された。 ○関係機関が相互に連携する体制はできている。 ▲家庭や地域への情報発信に課題がある。
<p>⑤独自の教育課程（ふるさと教育）のカリキュラムを工夫・改善し実践するとともに、小中をつないだ教科指導の連携を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとキャリア教育の年間指導計画作成と実践 ・各教科重点指導事項を明確にした年計への位置づけ 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の指導計画の見直しの実施とそれに沿った学習活動の実施が行われている。 ○教科指導における指導法、重点指導事項の共有が行われている。 ▲育てたい資質能力を明確にした取り組みをさらに推進していく必要がある。

(2) 学力向上の推進				
目 標	成 果 指 標	評 評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)	
<p>①児童生徒の学習習慣の定着や学習規律の徹底を図る。</p> <p>②基礎学力や学習習慣の定着とともに、意欲的な学びの態度を身につけさせる。</p>	<p>・ i-Check による「学習習慣」に関する肯定的回答 (全国平均)</p>	C	C	<p>・ 授業や家庭学習についての指導、家庭学習が伸びるウィークの実施により、学習意欲の向上や学習習慣作りに取り組んでいる。</p> <p>・ i-Checkによる学習習慣に関する肯定的回答 学習習慣 全国平均と同程度以上4学年(小1、小2、小4、中2)</p> <p>▲学習習慣の定着は不十分であり、学校での学習指導の充実を図るとともに、家庭と連携した取り組みを推進することが必要である。</p>
<p>③教師力向上に向けた研修を積極的に行い、わかる授業の創造や指導力の向上、授業改善を進める。</p> <p>④主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを実践し、主体的に課題解決に取り組む意欲を高める教育活動を展開する。</p> <p>⑤教師の授業力、指導力の向上、また子どもの発達段階における諸課題や心理面の的確な把握と専門的資質向上に向けた研修に努める。</p> <p>⑥主体的・対話的で深い学びの実現に向</p>	<p>・ 教職員の公開授業の実施 (年間2回以上)</p> <p>・ 教職員の指導力向上研修会等 (地教委・県教委主催) への参加 (年1回以上/人)</p> <p>・ 小中合同授業研究会の開催 (年2回以上)</p>	B	B	<p>・ 計画訪問や校内授業研究会で全教員(管理職、養護を除く)が2回以上授業を公開した。</p> <p>・ 県教育センターの専門研修への参加 小学校2名、中学校3名。</p> <p>・ 町教委主催の小中合同研修会として、特別支援教育、CS、生徒指導に関する研修等を開催した。</p> <p>・ 小中合同授業研究会は、コロナウイルス感染防止対策もあり、一部の教員のみが参加する形で実施された。</p> <p>・ ICT活用研修は小学校6回、中学校2回実施。</p> <p>○各校での研究推進は努力されている。</p> <p>▲各教職員が研修に積極的に参加できるような学校体制を整備するとともに、小中で一貫した研究推進体制を整備すること等、取り組みを見直す必要がある。</p>

<p>けた授業改善やICTを活用した授業を実践し、児童生徒が相互に関わり合いながら主体的に学習内容を確実に身に付ける授業の展開を創造する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用研修の実施（年2回） 	<p>B</p>	
<p>⑦児童生徒の学力の現状及び課題を把握 ・分析し、具体的な手だてを講ずるとともに学力向上をめざして一貫した指導の展開を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査、標準学力調査の結果分析の周知と具体的手だての検討・実践 	<p>B</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校で結果をもとに、特に全国平均を下回っている内容について分析し、各教科の授業における指導方法の改善や補充問題の実施により、学力向上に取り組んでいる。 ○児童生徒の学力等の現状の把握はできている。 ▲学力向上を実現するための取り組みは十分とは言えないため、さらに努力する必要がある。
<p>⑧英検受検や京大留学生との交流、海外派遣事業等を通して、グローバル化に対応した英語教育の推進に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海外派遣事業の実施 ・国際交流事業（交流学習）の実施（年1回以上） ・生徒の英検合格率75%以上 	<p>C</p> <p>C</p> <p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海外派遣事業は新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止。 ・国際交流事業は、シアトル中学生の来日の中止、京大留学生の受け入れ中止で、シアトル中学生とのオンラインによる交流のみ実施された。 ・英検の受検結果 3級合格（6/17） 4級合格（8/12） 5級合格（24/33） 全体合格率62% ○多くの事業が中止となったが、中学校では各学年でWEB会議システムを活用した交流の機会が設けられた。 ▲英検合格率は75%に到達しなかった。また、中3における3級合格者が6名にとどまり、英語の基礎学力の向上が必要である。次年度もコロナ禍において、オンラインでの交流事業を進め、外国への興味関心を高めるとともに、英語力の向上に努める。

(3) 乳幼児期からの教育の充実				
目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①保小の教育内容や指導法について共通理解を図り、保育園と小学校の円滑な接続に努める。	・子ども支援連絡会議、保小連携会議、ケース会議等を活用した支援体制の構築	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 各会議とも計画通りに実施された。 保小の円滑な接続のために、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムも活用された。 ○保育参観等、保小連携の場と方法を工夫して円滑な接続のために努力された。 ▲個々の教職員の保育、教育に関する理解をさらに深める必要がある。支援の必要性がありながら十分な対応ができないケースもあり、支援体制の強化が必要である。
	・保育要録、支援シートを活用した情報共有と移行支援会議の実施	B		
	・アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの活用、実践	B		
②幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」に照らした環境整備や体制づくりを進め、幼児教育の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 保育士研修（CS、認定こども園等）の実施等、保育園との連携 連携保育士との協働（公開保育、カンファレンス） 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 小中教職員とともに、保育士にCS研修を行い、保小中連携して取り組みを進めることを確認した。 認定こども園の視察（南部町、赤碕町）を計画・実施した。 連携保育士と定期的に協議し、公開保育、カンファレンスに参加し、保育士の資質向上に努めた。 ○認定こども園への移行に向けて、研修を行い保育士の理解を図った。公開保育、カンファレンスに参加し、保育園の状況を把握することができた。 ▲認定こども園移行に向けて、準備、研修等、スケジュールを早急に立てて取り組む必要がある。
③家庭教育の重要性を周知・啓発し、子育てに関する保護者の意識を高める。	・5歳児健診時の教育相談の実施	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 健診時の教育相談、保護者研修会ともに、計画通りに実施した。就学時検診では、昨年度に引き続き、鳥大医学部角南なおみ先生に講演をしていただいた。 ○健診後には関係者による情報共有と対応についての協議等を行い、就学に向けた取り組みを確認することができた。また、子どもの発達と家庭での子どもとの関わり方について講演していただき、保護者の理解が深まった。
	・就学時健診時の保護者研修の実施	A		

④日南町の子どもたちに必要な保育や教育のあり方を検討し、保育園と学校の接続を踏まえた保育並びに教育計画を立案する。	・日南町子どもの教育あり方検討会の開催と周知	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会が5回にわたって開催され、委員による議論を経て、答申がまとめられた。また、合同研修会を開催して保小中の職員への周知を行ったり、シンポジウムを開催したりして関係者や町民への周知を行った。 ○答申によって今後の日南町の保育・教育の目指すべき方向が示された。
---	------------------------	---	---	---

3 家庭・地域と連携した教育の推進

(1) 学校・家庭・地域の連携による子どもの育成				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①学校、家庭、地域が一体となり、子どもの教育活動を支援する体制・組織・環境を確立する。	・学校支援ボランティアの積極的・計画的活用	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域C0の2名配置により、学校と連携を図りながら、ボランティアの活用を図った。 ○地域C0により、幅広くボランティアを募ることができている。3月には、CSサポーターを立ち上げ、地域全体で子どもを育てる組織づくりに着手した。 ○学校支援ボランティア連絡協議会で学校管理職とも意見交換ができた。 ▲学習の計画から反省まで、学校とボランティアがきちんと話ができていない。
②地域コーディネーターやボランティアなどによる学校支援活動を効率的、組織的に進める体制づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターとの連携・協働 ・学校支援ボランティア連絡協議会の定期的開催（1回／2ヶ月） 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の指導計画の見直しの実施とそれに沿った学習活動の実施が行われている。 ○小中学校におけるふるさとキャリア教育の年間指導計画の見直しが実施され、特に森林教育（木育）の取り組みが中学校まで拡大され、全学年で実施された。 ▲地域の自然・伝統・文化等に関する指導計画の見直しを実施し、「日南学」として系統的な指導の
③教職員が地域での児童・生徒の実態把握に努めながら、その要望や願いを具体的に生かした特色ある学校経営の推進と実践を図る。	・総合的な学習やふるさと学習等の計画的実施	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の指導計画の見直しの実施とそれに沿った学習活動の実施が行われている。 ○小中学校におけるふるさとキャリア教育の年間指導計画の見直しが実施され、特に森林教育（木育）の取り組みが中学校まで拡大され、全学年で実施された。 ▲地域の自然・伝統・文化等に関する指導計画の見直しを実施し、「日南学」として系統的な指導の

				充実を図ることが求められる。
④コミュニティ・スクールの導入に向けた取り組みに努める。	・コミュニティ・スクール説明会等の実施（7回以上／年）	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域、保小中教職員に向けてCSの研修を行い、熟議を行った。 ・町報、CSだよりを発行し広報活動に努めた。 ・県CS研修会、全国CSフォーラムに参加した。 ○各地域、社会教育委員、民生委員等、たくさんの地域住民の参加があった。地域の方からも多くの建設的な意見を伺うことができた。 ▲地域住民へのさらなる周知活動が必要である。
	・導入に向けた講演会の実施	A		

（2）保護者研修の充実				
目 標	成 果 指 標	評 定	評 定	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①子育てセミナーや家庭教育講演会、子育て相談、医療相談等の充実を図り、安心して子育てができる環境整備に努める。 ②子どもの発達段階に応じた子育てに関する研修、家庭教育に関する保護者研修を充実させ、家庭教育の重要性の自覚と家庭教育に関する意識の高揚を促す。	・各健診時、学年行事等を活用した講演会や保護者研修会の実施（年2回）	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・就学時検診では、鳥大医学部角南なおみ先生に講演をしていただいた。また、鳥取大学小林教授による家庭教育講演会を開催した。 ○角南先生の講演会では、子どもの発達と家庭での子どもとの関わり方について講演していただき、保護者の理解が深まった。小林教授による講演会では、小学生の実態にもとづいて、家庭教育の重要性について講演していただいた。
③家庭と連携し、児童生徒のより良い生活習慣の確立と学習習慣の定着を図る。	・i-Checkによる「学習習慣」に関する肯定的回答（全国平均）	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習がんばるウィークの実施等、家庭と連携した取り組みを行っている。 ・i-Checkによる生活・学習習慣に関する肯定的回答 学習習慣

	<ul style="list-style-type: none"> ・ i-Check による「生活習慣」に関する肯定的回答 (全国平均) 	C	<p>全国平均と同程度以上4学年(小1、小2、小4、中2) 生活習慣 全国平均と同程度以上7学年(小1、小2、小3、小4、中1、中2、中3)</p> <p>▲学習習慣や基本的な生活習慣は不十分であり、保護者への情報提供や啓発によって課題意識や目標を共有し、連携した取り組みをさらに進めることが必要である。</p>
④家庭教育推進員を配置し、PTA活動の活性化を図ると共に、相談活動、支援活動をすすめ、家庭教育の充実と連携強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「共育いちい」の定期発行による家庭教育啓発 (月1回発行) 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭教育推進員が病休・休職となり、「共育いちい」の発行は中断した。 ・ チラシや文字放送、防災無線等による講演会等の周知を行った。 ・ PTAによる研修会は実施できなかった。 <p>○保護者への情報提供は様々な形で実施できた。</p> <p>▲PTA研修の支援等、これまで家庭教育推進員が行ってきた業務の多くが中断した。次年度には、家庭教育推進員の配置を早急に行い、家庭教育支援の体制づくりをさらに進めていく必要がある。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者への研修情報の提供とPTA研修の支援 	B	

4 学校教育を支える教育環境の充実

(1) 創意工夫を生かした特色ある学校運営の推進				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①計画的な学校評価、教職員評価・育成制度の活用を通して、教職員の意欲の向上を図るとともに、授業や学校運営の改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校自己評価の実施 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学校で、児童生徒の実態を踏まえた学校自己評価が行われた。 ・ 教職員評価・育成については、管理職との連携を図りながら実施した。 <p>○評価結果の公開等、計画的に実施された。</p>

				▲改善のための方策が成果につながっていない状況があるので、さらに努力する必要がある。
②地域との連携等を図りながら、地域人の活用や学校と地域をつなぐ人材の配置などの仕組みを整える。	・学校支援ボランティアの活用 (ボランティア延べ人数年800人以上)	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策で様々な活動が制限されたため、例年よりもかなり少なかったが、学校支援ボランティアは年間で延べ625名の活用があった。 小学校では、生活科、総合的な学習の時間等における指導のため、特別非常勤講師として地域の専門的な知識や技術を持った人材を活用した。 地域コーディネーターを2名配置し、学校と地域をつなぐ役割を担ってもらった。 ○コミュニティ・スクールの導入に向け、地域学校協働活動への関心も高まってきている。
	・特別非常勤講師の活用と地域コーディネーターの配置	B		

(2) 安全・安心で質の高い教育環境の整備				
目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①学校内外の安全確保、危機管理体制の充実を目指した機能的な学校環境を創造する。	・学校危機管理マニュアルの点検と整備	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初、各学校で危機管理マニュアルの見直しが行われ、教育委員会に提出された。 安全点検については、中学校では毎月実施された。小学校では、実施できていない月があった。 ○児童生徒の安全確保のため、学校と連携しながら施設・設備の管理を行った。
	・学校の安全点検の徹底と指導 (月1回)	B		
②ICT環境、学校図書館及び教材整備の充実に務め、質の高い教育が受けら	・ICT機器やソフトウェア等の環境整備	B	B	<ul style="list-style-type: none"> GIGAスクール構想によるiPadや周辺機器、ネットワークの整備を実施し、学校のICT環境が充実した。 ソフトバンクとの連携により、Pepperも導入した。

れる教育環境を整備する。	・ I C T支援員の活用	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT支援員業務を新たに業者委託し、支援体制の充実を図った。 ・ 学校司書が中心となり、町図書館とも連携を図りながら蔵書の充実に努めた。 ・ 学校からの要望等にもとづき、施設・設備・教材を整備した。 ○タブレット端末の整備等、様々な環境整備が県や他市町村との連携の中で進められた。 ▲教育環境の整備のため、今後も計画的に充実を図る必要がある。また、タブレット端末の活用が本格的にスタートする来年度以降、教育環境を十分に生かした学習指導等を学校に求めていくことも必要である。
	・ 司書教諭、学校司書、図書支援ボランティアが連携した読書環境の整備	B	
	・ 学習や生活環境充実のための施設、設備、教材整備	B	

(3) いじめ・不登校等に対する対応強化			
目 標	成 果 指 標	評 価	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①スクールソーシャルワーカーの配置を継続し、子どもを取り巻く環境への働きかけ等を通して、いじめ・不登校などの生徒指導上の諸課題の未然防止、早期対応に向けた取り組みを強化する。	・ 子ども支援連絡会議の定期開催 (月 1 回)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども支援連絡会議は、概ね月 1 回 (年間 8 回) 開催した。 ・ 個別の指導計画等は整備・活用されたが、成果につながらないケースもあった。 ・ 学校の生徒指導上の諸問題に対する指導助言等、学校の支援に努力したが、十分な成果につながらないケースもあった。 ・ 学校の組織対応については、見直しと改善が必要な状況があった。 ○各学校で対応が効果的に働き、早期解決に至ったケースもあった。 ▲いじめ、問題行動、不登校等生徒指導上の問題が長期化しているケースもあった。今後も改善のための取り組みの継続が必要である。
	・ 個別の指導計画及び支援シートの整備・活用と指導助言	B	
	・ 生徒指導上の諸課題の未然防止、早期対応に向けた取り組みと組織的対応	C	

(4) 特別支援教育及び心の教育の充実と組織・体制づくり

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
<p>①特別な支援を必要とする幼児児童生徒が、その種類や程度に応じた教育が受けられる体制や仕組みを整える。</p> <p>②福祉等関係諸機関との連携を強化し、子ども支援連絡会議、就学支援委員会等の支援体制の充実と活性化を図る。</p>	<p>・子ども支援連絡会議の定期開催 (月1回)</p>	B		<p>・子ども支援連絡会議は、概ね月1回(年間8回)開催した。</p> <p>・町就学支援委員会は西部町村就学支援委員会に向け、2回開催した。</p> <p>・5歳児健診や就学時検診、子ども支援連絡会議、保育園でのカンファレンス等、保小中、福祉保健課等との連携を図った。</p> <p>○各学校で対応が効果的に働き、早期解決に至ったケースもあった。</p> <p>▲いじめ、問題行動、不登校等生徒指導上の問題が長期化しているケースもあった。今後も改善のための取り組みの継続が必要である。</p>
	<p>・町就学支援委員会の開催 (年2回)</p>	A	A	
	<p>・学校関係者、福祉保健関係者、医療関係者等の随時の情報交換の体制づくり</p>	A		
<p>③いじめや不登校、生徒指導上の諸問題の解決や教育相談の充実のため、人的配置や関係諸機関等との連携を図る。</p>	<p>・スクールソーシャルワーカーの配置や各機関の役割を明確にした支援体制の構築</p>	B		<p>・SSWを小中それぞれに配置するとともに、ケースによって2名のSSWが連携して取り組めるよう柔軟性のある体制整備を行った。</p> <p>・学校の組織対応については、見直しと改善が必要な状況があった。</p> <p>○各学校で対応が効果的に働き、早期解決に至ったケースもあった。</p> <p>▲いじめ、問題行動、不登校等生徒指導上の問題が長期化しているケースもあった。今後も改善のための取り組みの継続が必要である。</p>
	<p>・いじめや不登校、生徒指導上の諸問題に迅速かつ適正に対応できる学校体制の構築</p>	C	B	
<p>④高校教育への丁寧な接続と進路指導に努める。</p>	<p>・高校教育の在り方を視野に入れた進路指導の充実</p>	A	A	<p>○中学校では、個々の生徒の希望や各高校の特色等をふまえ、保護者と連携しながら生徒に合った進路指導が行われた。</p>

II 社会教育

1 社会教育の充実と生涯学習の推進

(1) 学習の機会・成果発表の場の提供と充実

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①町民のニーズや各年代層に応じた生涯学習を開催し、学習の機会を提供する。	・各機関と連携し、成人層を対象とした生涯学習講座の開催（参加者数 平均20人以上、満足度85%以上）	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「町民大学」7回 延158人（平均22.5人） ・「やさしい国語」3回 延58人（平均19.3人） ・「やさしい数学」4回 延22人（平均5.5人） ○本年度より数学の連続講座を開始し、新たな学習機会を提供できた。 ○住民ニーズに沿った講座を開催し、参加者の高い満足度を得た。 満足度（大学-88%、国語-100%、数学-83%）
	・高齢者を対象とした、自主的運営による「人生学園」の学園運営への支援実施（年間10回開催、新規入園生5人以上）	A		<ul style="list-style-type: none"> ・町外研修は中止としたが、新型コロナウイルス感染症対策をとり、計画的に学習を行った。 ・11回開催、園生54人（うち新規6人）
	・独身者、親世代など広く町民を対象にしたセミナーやイベントなどの婚姻事業の実施	A		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響によりイベント未開催 ・WEB会議システムを活用したセミナーを開催 ・個別に結婚相談所入会相談会を実施 ○成婚3組、入会2名 ▲入会者が勧誘しても増えない。入会後にお見合いなどを勧めても積極的に活動しない。
②町民が活躍できる場が広がることを目指す	・「にちなん文化展」や常設作品展示コーナーなど作品	B	B	・コロナにより、にちなん文化展開催中止

し、学習の成果を発表できる場の提供を継続して行う。 ③学習成果の交流、還元、情報発信に努め、学習意欲向上を図る。	発表の機会の確保	C		<ul style="list-style-type: none"> ・常設作品展示(文化センター内)は出展者の負担軽減と鑑賞機会拡大のため、1団体の展示期間を2カ月に延長した。 ・コロナにより、芸能発表中止 ・コロナ対策をとり、規模を縮小しふる里まつりを開催。出展者数37(団体・個人計)、来場者717人
	・芸術文化活動への関心の高揚、文化活動人口の底辺拡大と活性化。 (ふる里まつりの出展者・団体 計60以上)			
④学習活動の活性化を図り、活力ある文化団体等支援助成金による支援を行う。	・ふる里まつりにおける活動報告の実施	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・活力ある文化団体等活動支援助成金(申請数16団体うち新規2団体) ▲活動資金の大部分を助成金に依存している団体がある。助成金がなくても活動を維持できるように各団体の体力をつける必要がある。
	・活力ある文化団体等への活動助成金交付(申請数 20団体以上、新規2団体以上)	B		

(2) 文化施設を活用した文化振興		評	評	実施状況(・) 成果(○) 課題(▲)
目標	成果指標			
①総合文化センターの施設・設備の整備を計画的に進め、文化芸術活動の推進を図る。	・総合文化センターの施設・設備等を点検し、改修を計画的に実施する(エレベーター改修工事の実施)	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーター改修工事の完了 ・文化センター自主事業4事業(うち2事業は令和元年度分) ・給水加圧ポンプ緊急修繕 ・令和元年度分事業の実施(DRUM TAO、映画マンハント上映会) ○コロナ禍において安心安全に参画、鑑賞できる事業の実施に努めた。(イルミネーション&レーザーアニメーション、ダンス発表会)
	・総合文化センター自主事業の実施(年間6公演)	—		
②総合文化センターの施設等を文化芸術活動の場として積極的に利用していただき	・指定管理者への委託による適正な運営と管理(来場者、利用者の前年比増)	B	B	○来館者が安心して安全に利用できるよう、指定管理者によってコロナウイルス感染症対策が適

、活動の活性化を図る。	・団体と文化センターとの結びつきの強化（ 〃 ）	-	正に行われた。 ▲コロナの影響により施設利用団体が減少
-------------	--------------------------	---	--------------------------------

(3) 生涯学習を行う文化団体、個人の支援

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①社会教育推進員を配置し、個人や団体の地域活動、文化活動を積極的に支援し、社会教育の充実と連携強化を図る。	・町や各地域における各種行事、取組に対する支援及び情報交換、連携	C	C	▲地域学校協働活動の推進に向けた体制の見直し ▲社会教育推進員が積極的に地域に出かけ、各団体やまち（むら）づくり協議会と互いのニーズを共有し、改善策をみつけ、社会教育と生涯学習を進める。 ▲コロナの影響により地域での生涯学習の機運低下が起きている。生涯学習が住民の生きがいにつながるよう、さらに支援を行う必要がある。
②まちづくり・むらづくり協議会と連携を深め、地域の生涯学習の充実を図る。	・まち（むら）づくり協議会との連携と情報の共有化	C		
	・地域での主体的な学習・活動に対する協力や支援	C		
③社会教育委員の研修を充実し、資質の向上を図る。	・研修会の開催（年1回以上） ・委員の社会教育事業への参画	A	A	・会議開催のほか、研修会を3回実施し、委員の資質と意識向上を図った。 ・県社会教育委員研修6人参加 ・子ども体験事業への委員の参画（延べ20人）

2 青少年の育成・家庭教育の充実

(1) 「ふるさと教育」の推進

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①日南町に誇りと愛着を持ち、将来の地域の担い手となる人材育成に努める。	・日野郡3町で行う「ふるさと教育」の推進 公設塾「まなびや縁側」の充実と塾生の確保 (町内在住高校生の利用5人以上)	B	B	○町内在住の塾利用者10人（試行期間含む） ○町内をフィールドとしたり、町民が講師を務めたりするキャリア教育を実施し、高校生の郷土理解を深め、興味関心を高めた。
②青少年が地域で活躍できる場づくりに努める。	・西部圏域における青少年事業への町内在住者の参加、交流	—	—	・コロナの影響により事業中止 ▲青年層と社会教育とのつながりをつくること。

(2) 体験活動の機会を提供

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①地域や地域人材、団体による連携の中で、活動の楽しさやふるさとの良さに気づけるような体験活動を実施する。	・まちづくり・むらづくり協議会等と協力した体験活動の実施	B	B	・地域振興センターにおいて、町民が講師となる体験活動を実施（化石学習と採集） ・長期休業期間中に創作活動や読書活動、郷土学習などの体験活動を実施し、多面的な学びの場とした（夏-9事業246人、冬-2事業61人、春-3事業）
	・長期休業中の子ども体験活動の実施	B		

(3) 家庭教育の推進

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①家庭教育推進員を配置し、家庭教育の推進を図る。 ②親の育ちを応援する学びの機会を充実させる。 ③親子と地域をつなげる取り組みを進め、地域全体で子育てを支援する。	・家庭教育講演会の実施（学校・PTA等との連携） （年1回以上）	A	A	・就学時健診講演（角南なおみ氏 15人参加） ・家庭教育講演会（小林勝年氏 95人参加） ○就学時検診時には子どもの発達と家庭での子どもとの関わり方について、家庭教育講演会では小学生の実態に基づいた家庭教育の重要性について講演を行い、保護者の理解を深めた。

3 文化財、郷土芸能の保護と伝承

(1) 文化財、遺跡の調査並びに保護

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①郷土の歴史資料や文化・芸術に関する資料、美術品や古文書などの保存・整理に努め、必要に応じて活用を図る。	・古文書及び歴史資料のデジタルデータを公開	C	C	▲デジタル郷土資料館として役場、図書館において所蔵品などを公開しているが、利用は限定的である。今後は、日南町HPやちゃんねる日南での広報などあらゆる媒体を利用し、繰り返し周知する。 ・遺跡地図の情報を更新した。 ▲遺跡地図の公開方法について、インターネット公開を含め検討が必要。 ・今年度、発掘調査対象事業は無し。
②町の有形・無形文化財や遺跡について調査と保存、町民への普及啓発活動を行う	・遺跡地図の情報更新と公開	B		
③町内の遺跡について、その調査活動の組織と推進体制を整える。	・住民への情報提供、現地説明会の開催	C		

(2) 郷土資料館の資料を活用した町民への郷土史、文化財の周知と理解促進

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
① 貴重な収蔵品や資料等を町民に周知し、郷土の歴史に対する学習意欲の向上を図る。また、「続日南町史」の周知に努める。	・ 講座等の開催による郷土の歴史への興味関心と調査意欲の喚起	B	B	○ 古文書解説講座を開催し、町所有古文書の目録情報を拡充させたデータベース化を進めた。(参加延べ110人) ○ 町民大学において町内文化財を紹介する講演を実施。(参加25人) ○ 町外開催の企画展に郷土資料館収蔵品の貸し出しを行い、町郷土史の周知機会とした。(鳥取県・米子市 各1回)
	・ 地域や団体と連携した学習機会の提供	B		
② 収蔵資料等の調査や研究を行い、町民へその成果等最新の情報を提供する。	・ 収蔵品目録の確認と修正	B	B	・ 収蔵品の整理と目録の修正を行った。 ▲ 収蔵品に関する情報を、町内外に周知する方法を検討する必要がある。 ○ 木下家で新たに発見した古文書の整理を進めた
	・ 新規収蔵古文書の整理と活用	B		

(3) 郷土芸能伝承のための支援

目 標	成 果 指 標	評 価	評 価	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
① 郷土資料の収蔵、整理を進め、資料の管理と活用に努める。	・ 郷土資料を活用または貸し出した事業の実施 ・ たたら製鉄に関する郷土資料の収集	C	C	▲ 小中学校との連携事業の検討 ・ たたら製鉄民具の収集に向け所有者と継続し連絡を取っている。 ・ コロナにより多くの団体・個人が活動を自粛したこともあり、支援が行えていない。 ▲ コロナ禍においても、団体の活動が停滞しない
② 郷土伝承芸能等の保存伝承と後継者の育成及び助成に努める。	・ 無形文化財保護活動への支援	—		

				ような支援方法の検討が必要である。
--	--	--	--	-------------------

4 図書館・美術館の充実

(1) 町民が求める資料、情報の提供				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①町民の求める資料や情報の提供に努めるとともに、広く町民に図書館の魅力と活用方法を積極的にPRし、利用者の増加を図る。	・図書館だよりやCATVなど、あらゆる媒体を活用した情報発信	B	B	○町報で図書館HPの便利な機能を紹介したことで、利用者自身による延長やインターネット予約が増加した。 ・参考業務（259件） ・予約リクエストサービス（1,591件） ・町民1人当たりの貸出冊数3.75冊 ▲コロナの影響もあるが、個人への貸出冊数が減少傾向にある。
	・参考業務（120件以上）、予約リクエストサービスの利用促進（1,800件以上）	B		
	・利用状況（実績）町民1人当たりの貸出冊数5.0冊	C		

(2) 子どもの読書活動・学習活動の支援				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①日常的に読書に親しむことができるよう環境整備に努める。	・おはなし会やブックトークなど子どもが本に親しみ、読書に興味を持つ取り組み	B	B	・出張読み聞かせ 保育園（40回、延626人）、支援センター（9回、

	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に向けた子どもの読書活動の啓発（年3回以上） 	B		延74人）
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況（児童書貸出冊数12,000冊以上） 	C		<ul style="list-style-type: none"> ・例年実施している幼児健診時の家庭読書啓発はコロナにより中止 ・児童書貸出冊数（11,024冊）
②子どもの学習活動の充実のため、学校図書館支援など、学校との連携・協力を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書を利用した学習活動の支援（各学年学期ごとに1回以上） 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校司書を通じて学習の関連図書の迅速な提供ができた／小学校（11回）
③「日南町子どもの読書活動推進計画」の見直しを図り、その実践に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・読書を取り巻く環境の変化に応じた計画の見直し 	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ○児童、生徒、保護者を対象としたアンケートを実施し、計画へ反映 ▲現状と課題に沿った計画を令和3年に策定

（3）地域活性化、基幹産業の発展に役立つ資料・情報の提供

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①農林業分野や地域振興、6次産業化に役立つ資料の一層の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・農林業、地域活性化コーナーの周知 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「農業者のための図書館活用ミニ講座」を開催し、図書館資料の活用方法を知ってもらうことができた。 ▲農林業に携わる人のニーズ把握
	<ul style="list-style-type: none"> ・農林業分野や地域振興、第6次産業に関する新書籍の購入や資料収集の実施 	B		

（4）魅力ある展覧会の実施

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況（・）成果（○）課題（▲）
①多様な芸術文化に触れる機会の提供。	<ul style="list-style-type: none"> ・特色ある企画展と収蔵品を活用した魅力ある展覧会の開催（企画展と収蔵品展 年6回開催） 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での特別展中止 ・所蔵品展6回、企画展3回、共催展2回

				・古伯耆者の系譜、クレパス画展
②郷土ゆかりの作家や作品を紹介し、広く情報発信に努める。	・佐武林蔵、足羽俊夫など、郷土ゆかりの作家や作品の展示事業の開催	B	B	・コロナ禍での事業の中止、変更に伴い所蔵品による企画展示を開催。(佐武林蔵コレクション、クレパス画、小早川秋聲)
	・絵画鑑賞をより深めるための展示説明や講演会、ワークショップなどの教育普及事業の実施	B		・子どものアトリエ(220人/23回) ・ワークショップ(257人/12回)
	・ポスター、チラシを作成し、広く配布するとともに、新聞、テレビ、ラジオ、ホームページやブログなどのあらゆる媒体を活用した情報発信	B		・展示解説、団体説明、保育園、小学生来館対応 ・広報用の印刷物作成、HP、SNS を利用した情報発信、報道機関への情報提供等に努めた。

(5) 郷土の文化、芸術活動の活用と保存				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①町の貴重な文化・芸術作品の保存をするとともに、広く町民に紹介をし、特色ある所蔵品の充実を図る。	・美術品の収集(購入、寄贈、寄託作品の受け入れ)	B	B	・現代作家のクレパス画作品 11点 ・辻晋堂作品寄贈 15点 ・小早川秋聲作品寄贈 1点 ・鳥取県教育委員会寄託作品1点
②所蔵品情報を広く公開したり、活用したりするためのデジタルアーカイブの整備に努める。	・所蔵品のデータベース化	B	B	・足羽俊夫作品を撮影し、データベース化(作業中) ・所蔵品の撮影委託を行いデータベース化(作業中) ・小早川秋声資料のデータベース化(作業中)

(6) 美術教育の普及

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①美術館が鑑賞教育の場としての役割を果たすため、学校との連携体制づくりを進める。	・ 図工や美術の授業を活用した鑑賞教室の実施	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校美術教科と連携し、全生徒が県展の鑑賞を行った。 ▲学校との連携による小中学生の絵画鑑賞機会の提供 ・ 山の上保育園での絵画教室(1回)

5 健康・体力づくり、スポーツ活動の推進

(1) 健康、体力づくりの推進

目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①町民が自らの健康や体力づくりに関心を持ち、スポーツに親しむ環境づくりの推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各競技部による大会の開催と協力 ・ 体力運動能力調査の実施と運動能力の現状把握 	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナの影響で各種大会が開催中止となった。 ・ 運動能力テスト (参加者23人)
②スポーツ活動の活性化やスポーツ推進委員の活動を充実させ、体育諸活動・各種スポーツの普及と振興、体力づくりの推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ推進委員によるニュースポーツ普及活動 ・ スポーツ指導者の資質の向上に関する研修会等参加 	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナの影響により出前講座が開催されず、ニュースポーツの普及活動が限定的となった。 ・ 各種研修会は全国、中国大会の延期により県大会のみ参加 (3人) ▲ニュースポーツを若年層にも広めること。

(2) 各競技団体の活動強化支援				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①各種スポーツ団体の育成強化とスポーツ活動の活性化及び自主的運営の促進を図る。	・日南町体育協会、日野郡体育協会等との連携	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は郡体、四県四郡市などが中止となった ▲総合型地域SCの設立を支援し、各種団体との連携を図っていくこと。 ▲郡民体育大会、四県四郡市体育大会の実施内容の検討
	・日南町スポーツ少年団の育成と活動支援	B		
	・郡民体育大会、四県四郡市体育大会の支援、実施内容検討	C		
②日常的にスポーツ活動に親しむための団体育成に努める。	・各種スポーツ活動の取り組みの支援と活動の活性化	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ・活力ある活動団体補助金を活用したチームへの支援 (7団体) ▲総合型地域SCの設立に向けた各チームとの連携

(3) 社会体育施設の運営管理				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①社会体育施設の適正な管理運営と利便性の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な施設管理の実施 ・社会体育施設の修繕計画の策定 ・社会体育施設を利用しやすい施設となるように整備、補修等を実施 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な施設の清掃・点検を実施し、利用者が安全に利用できるように努めた。 ・社会体育施設修繕計画の策定 ○体育施設周辺の駐車台数確保のため、北の原駐車場を整備。 ○町体育館に、町民が利用可能なWi-Fiを整備し利便性を向上させた。 ▲武道館が老朽化しており、修繕計画に沿った改修が必要である。

②各種団体が利用しやすい施設となるように、利用調整や施設整備に努める。	・体育施設利用調整の実施	B	B	・利用が集中する冬季間に利用調整会を実施 ▲今後団体や利用機会が増えた場合、使える場所が不足すること。
-------------------------------------	--------------	---	---	--

6 「社会に開かれた教育課程」実現に向けた学校教育との連携

(1) 学校を核とした生涯学習の実践、学習成果の発表				
目 標	成 果 指 標	評	評	実施状況 (・) 成果 (○) 課題 (▲)
①学校と地域人材との橋渡しを行う。	・地域コーディネーターと連携し、地域人材を活用した教育活動の実施	C	C	▲地域学校協働活動の推進に向けた体制の見直し ▲地域コーディネーターと社会教育推進員の連携強化し、地域人材の活用を進める。
②生涯学習を通じて培った学習成果の発表の場として学校を活用し、地域の方々と児童生徒の交流を図る。	・学校を活用した学習成果の発表の実施	C	C	▲学校を住民の学習成果の発表の場とするための学校への協力依頼が行えていない。今後、地域学校協働活動の一環として空き教室を生涯学習の場とするなど、積極的な連携が必要である。
③郷土の歴史調査や伝統文化活動を行っている人材を活用した「ふるさと教育」の推進を図る。	・学校教育における地域資源や地域人材を活用した「ふるさと教育」の実施 (1回以上/年)	C	C	▲地域コーディネーターと社会教育推進員が連携し、学校教育における郷土学習に積極的に社会教育が関わる体制を強化する必要がある。